様式3

令和5年度　小金井市立東小学校　自己評価まとめ

学校教育目標　支え合い、学び合い、高め合いの精神を大切にし、小金井の地に育ちこれからの22世紀の世界に羽ばたく人間として、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。

○やさしい子　　◎考える子　　○元気な子

目指す学校像（ビジョン）　　**支え合い、学び合う東小　－心豊かで、自ら考え、行動する「東の子」の育成－**

【目指す学校像】　○家庭・地域とともに豊かな心を育てる学校　○主体的に学び合い、確かな学力を身に付ける学校　○自ら考え、自主的に行動する態度を育む学校

【目指す児童・生徒像】　○心豊かで思いやりのある子どもを育成する　○自分で考え行動できる子どもを育成する(本年度の重点)　○いつも健康で、明るく元気な子どもを育成する

【目指す教師像】　○使命感をもち、組織的に行動する教師　○常に学び続け、自己の能力を向上させる教師　○子供・保護者・地域等から信頼される教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

校内研究を中心に、児童に「見通しをもって問題を解決する力」を身に付ける指導法を共有し、児童の考えを深める授業実践を積み重ねることができた。また、コミュニティ・スクールとして、リーフレットの作成や東小地域ボランティアの登録制度を整えた。今年度の引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「対話のある授業」や「児童が問題を見出し解決する授業」、「ICTの効果的な活用」について継続して取り組んでいく必要がある。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
子どもの権利の尊重	挨拶は、コミュニケーションスキルの第一歩であることを意識した指導を充実し、児童が自ら挨拶をする習慣を身に付けさせる。	3		毎月、学年ごとに挨拶運動を実施したり、全校朝会等で指導した機会が増えたりしたことから、児童が自ら挨拶をしようとする意欲が高まってきた。約9割の児童が肯定的に捉えている。今後も児童が自ら先に挨拶することを重点的に指導していく。	3	2	毎月の挨拶運動や全校朝会等の指導により、年間を通して約9割の児童が自ら挨拶をしようと意識して生活できた。一方で、保護者の肯定的評価は、児童の評価より低く、校内と校外（家庭・地域）で児童の挨拶の実態に違いが出た。今後も「明るい声で・いつでも・先に続けよう」を意識して挨拶ができるように指導を徹底していく。
	「東小のやくそく」や「ハチドリプロジェクトなどにおいて、児童自身ができる取組を考え、実践できるようにする。	3	4	昨年度に引き続き、各学年で「ハチドリプロジェクト」と教科学習を関連付けた活動をしたり、児童会を中心に、改めて学校のきまりについて考えたりして、児童が主体となった活動を進めている。9割以上の児童が肯定的評価をしている。今後は取り組んだことを全校に知らせる機会を充実させていく。	3	3	ハチドリプロジェクトは、学級、委員会ごとに児童が自分たちにできる取組内容を決めて、主体的に実践した。集会や給食中の放送を利用して児童の取組を伝える機会を設け、全校児童の意識付けを図った。本校の取組が、環境省の「環境教育・ESD実践動画100選」にも選定された。今後も児童が自分たちの活動がハチドリプロジェクトにつながっているということを実感できるように、その都度活動を価値付けていく。
授業変革の推進	「見通しをもって問題解決するための手立てを工夫すること」を意識した授業を実践する。	3	4	理科・生活科の校内研究での学びを生かし、問題解決学習を展開していけるようになってきた。「予想・計画・実験・結果・考察・結論」のサイクルを意識した授業を行ったり、身近な事柄に関連付けて考えさせたりして、児童が見通しをもって問題解決学習を進められるように工夫していく。	3	3	理科・生活科を研究教科として二年目となり、問題解決的な学習を積み重ねることによって、学習の見通しをもって主体的に学ぶ児童を育ててきた。毎月一回の校内研究では、全教員が指導方法について共有し、授業力の向上を図ることができた。日々の授業でも、児童が問題を見出し、根拠をもって自分の考えを表現したり、対話を通して自分の考えを深めたりする実践を展開し、児童の力を伸ばしていく。
	どのように対話をしたらよいか手立てを明確に示し、「対話的な活動の質」を高めることを意識して日々の授業を行う。	3	3	対話アンケートの結果から、自分の考えを友達と伝え合うことに消極的な児童が3割程度いることが分かった。対話をしたくなるような問いを投げ掛けたり、対話の視点を明確にしたり、ホワイトボードやタブレット型パソコン等も効果的に活用して対話の質を高めていく。	3	3	全教員がタブレット型パソコンやホワイトボードなどを活用して、対話を中心とした授業を行い、活発な意見交流ができるようになってきた。来年度は、対話に消極的な児童に対してのアプローチ方法や、「よい話し手・よい聞き手」の在り方の指導法等も考えていきたい。校内研究や研修会を充実させ、教員のさらなる授業力の向上を目指す。
地域連携の推進	学校だよりや学年だより、ホームページ等を活用して、学校の教育活動やお知らせ等を積極的に発信する。	3		積極的に学校や学年の様子をホームページで配信したり、配布文書のペーパーレス化を進めたりしている。引き続き、個人情報に配慮しながら教育活動やお知らせを発信していく。今後も、学年で更新する内容について準備をし、積極的に発信していく。	3	4	ホームページのスタイルが整理されて見やすくなり、情報の更新が頻繁に行われたことから、保護者や地域の方に学校の様子を知ってもらうことができた。学校だよりなどのメール配信も定着してきている。来年度も個人情報に配慮しながら、より充実した情報発信を目指していく。
	地域学校協働本部の地域コーディネーターと連携し、地域人材や施設、ゲストティーチャーを活用した授業を推進する。	2	4	一学期は運動会等の行事に授業を充てることが多かったため、地域人材や施設を積極的に活用した授業を十分に行うこと難しかった。今後は地域学校協働本部の協力を得ながら、地域人材を積極的に活用した授業計画を立て、実行していく。	3	4	二学期から、積極的にゲストティーチャーや地域ボランティアの皆さんに支援していただき、児童の活動が充実してきた。様々な活動を地域学校協働本部の協力を得ながら進めることができている。来年度も連携を取りながら、学校と地域がさらに協働して児童を育てていく。
特色ある学校づくり	一人1台のタブレット型パソコンを効果的に活用した協働学習を実践する。	3	4	一日一回以上、授業でタブレット型パソコンの活用を継続し、全学年が発達段階に合った使用方法で学習に生かすことができるようになってきている。今後も情報モラルに配慮しつつ、児童が効果的にタブレット型パソコンを活用できるよう計画を立て、系統的に取り組んでいく。	3	4	全ての学級でタブレット型パソコンを日々活用したことで、文字入力の速度や技能が向上し、効率的に活用できるようになった。児童にとってタブレット型パソコンを活用して学習することが日常化してきたからこそ、再度使用のルールの徹底や、より効果的な活用方法を吟味して、さらなる充実を図る。
	なわとび旬間やスポーツ選手との交流、外遊びの奨励等を通して、積極的に運動やスポーツに親しませる。	3	3	一学期に運動会を実施し、運動に対する意欲を高めることができたが、運動に対する意識に個人差がある。今後は、体力テストの結果を踏まえて、各学級の授業を通して体力向上に必要な運動を工夫しながら指導していく。また、なわとび旬間を契機に全校児童の運動意欲や体力を高めていく。	3	3	なわとび旬間では、今年度一新した「なわとびカード」や体育委員会の活躍もあり、全校の児童が意欲をもって取り組むことができた。今年度の体力テストの結果では、男女ともに反復横跳びと20Mシャトルランの数値が低く、敏捷性と持久力が弱いことが分かった。この結果を受け、なわとび旬間の充実を継続させたり、授業の準備運動に鬼遊びを位置付けたりして、休み時間や体育の学習を中心に子供たちの体力の向上に努めていく。
	縦割り班活動や、ひまわり学級との交流、学校行事や学級活動等を通して、児童同士が協力して運営できるようにする。	3	4	今年度から、縦割り班活動を休み時間に当てたことにより、時間に余裕をもって充実した交流活動が行われている。今後も高学年が見通しをもって計画を立て、リーダーシップを発揮できるよう指導していく。ひまわり学級との交流では、全校朝会や集会、行事等で定期的に関わるよい交流ができている。	3	3	縦割り班活動は、中休みの時間を使って時間に余裕がもてたので、6年生の活躍もあって児童が満足できる活動ができた。また、児童会主催の「たてわりSP」の取組も、児童間の関わりが深まるよい機会となった。今後も、ひまわり学級や異学年交流を積極的に行い、児童が多くの人と関わる機会を充実させていく。
	毎月の音楽朝会や展覧会、外国語等の授業を通して、「楽しく表現したくなる」活動の充実を図る。	3	2	表現することが苦手な児童もいるので、外国語の授業で音声を中心に表現活動を行ったり、日々の授業でも発表する機会を適切に設けたりして、自分の思いや考えを表出する経験を充実させる。また、展覧会の行事に向けて児童の意識を高めさせ、自分の思いを発表する機会を充実させる。	3	2	展覧会は、児童一人一人の思いを作品に表現できるよい機会となった。音楽朝会や外国語の授業では、伸び伸びと表現できる児童も多い。今後も日々の授業の中で、「表現・発信」する場を適切に設け、経験を積ませていく。また、児童が互いの考えを認め合い、自己肯定感を高めていけるような取組の充実を図る。